

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第7期相模原市中央区区民会議小委員会（グループ1）		
事務局 (担当課)	中央区役所区政策課 電話042-769-9802（直通）		
開催日時	令和4年12月22日（木） 10時00分～11時30分		
開催場所	市民会館2階 第2小会議室		
出席者	委員	7人（別紙のとおり）	
	その他	2人（学校教育課職員、こども・若者支援課職員）	
	事務局	1人（区政策課職員）	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="text-align: center;">開 会</p> <p>1 議題</p> <p style="padding-left: 20px;">第7期中央区基本計画の実現に向けた重点行動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点的な取組①「子育て支援」 <li style="padding-left: 20px;">重点行動「子どもに学習の場を提供する」 ・重点的な取組②「子どもの健全な育成環境の充実」 <li style="padding-left: 20px;">重点行動「学習・相談ボランティアの養成講座や仕組みづくりを行う」 <p>2 その他</p> <p style="text-align: center;">閉 会</p>		

<p>会議結果概要</p>	<p>地域での学習の場は、学力向上を目的とするのではなく、子どもが安心して来ることができる居場所をつくり、そこで見守りをしながら子どもたちに学ぶ楽しさを感じてもらうことを目的としたい。 活動場所やボランティアの確保など課題を解決する方法について更に話し合っていく予定。</p>
<p>主な内容は次のとおり。</p> <p>開 会 事務局から、運営に係る事務説明を行った。 —傍聴希望者 なし—</p> <p>1 議題 学習支援事業について、学校教育課中島総括副主幹（以下、学校教育）より資料の配布・説明があり、その後グループワークを行った。 主な意見等は以下のとおり。</p> <p>（加賀谷委員） ○学習支援スタッフが見守りをしているとのことだが、地域で無料学習塾や子どもの居場所を立ち上げるときに一番の問題は担い手となる。人材確保に苦勞するが、学校ではスタッフは教員資格を持っている方、経験のある方など限定して採用しているのか。また、どのように確保していくのか。</p> <p>（学校教育） ○退職した校長先生の中から協力もらえる方を募った。また、教員を志望している学生に声を掛けている。</p> <p>（加賀谷委員） ○そういう組織づくりができていくのか。</p> <p>（学校教育） ○退職校長会に依頼している。</p> <p>（酒井委員） ○低学年の学習する力をしっかり身に付けるという話だが、低学年時にこの事業がなかった今の4、5、6年生の中には身に付けられていない子どもも結構いると思う。その子たちも支援する取組があるのか。</p> <p>（学校教育） ○学校の授業の中や日々の関わりの中で、学校教育として置いていかないようにしている。</p> <p>（酒井委員） ○先生方の勤務時間数を考えると人出不足の中で個別指導にそこまでできるのかという心配もある。</p> <p>（学校教育） ○支援教育支援員というサポートする先生がいるので、その先生と連携して個別指導を行っていく。ただ、学校の限られた時間のほかに地域のサポートが学校外であるということも一つと考え</p>	

る。

(割柏委員)

○学習支援者が重要なポジションで地域ではなかなか担い手がいないが、教育委員会では校長会などのネットワークを持っているので、民間とも繋がりを持ってもらいたいと思う。

教師希望の学生や校長会との連携を地域にもうまく繋げていくようしてもらえれば大変ありがたい。そうすれば、先生だけの負担でできない部分をうまく地域の中ですることも可能と思う。情報共有できる場があるとよい。

(清水委員)

○事業は小学校1年生からだが、1年生から急激に変化が起きると思うと、保護者も心配するところである。

(学校教育)

○義務教育の9年間の前後の幼保小との連携、卒業後の高校との繋ぎも必要だが、その中でもまずは、小中の繋がりをきちんととやろうと意識している。

中学校区で子どもをどのように育てたいのか、それを中学校と小学校がきちんと共有する。そこから、保育園との連携も始めて、9年間だけではなくその前後も繋がないで、地域の中でどんな子どもたち育てたいのか共通理解しながら、保護者の方とも一緒に取り組んでいる動きもある。

(事務局)

○学習支援のボランティア活動してもらうためにどんな研修をしているのか、どういったことが必要か、学校教育課で統一的な考えがあるのか。

退職された先生が今まで自分がやっていた授業と今のやり方が違うというギャップをどう埋めていくのか。

(学校教育)

○昔は先生が紙と鉛筆、チョークで書いていたところが、タブレット上で記録をしていく、考えをまとめる、伝えるなど、ツールは確かに変わったが、教育が目指す一人一人を取り残さないというところは、学習指導要領も基本教育の根底は変わらない。

(事務局)

○ボランティアをするにあたって、研修は必要ないということか。

(学校教育)

○研修ではなく面談をして、気持ちの部分、意欲の部分の確認と、子どもたちをきちんと尊重する、こういう学力をつけさせたいという共通理解は図っている。

(酒井委員)

○ボランティア活動は無料か。

(学校教育)

○有償だが、交通費にプラス程度である。

(割柏委員)

○現在何名ぐらいいるのか。

(学校教育)

○正確な数字ではないが40、50人ぐらい登録されている。

(割柏委員)

○行政はそれだけの人数が集まるので、それを地域でも活用できればと思う。

学習・相談ボランティアの育成や仕組みづくりについて、こども・若者支援課（以下、こ若支援）より説明があり、その後グループワークを行った。

主な意見等は次のとおり。

(八木委員)

○相談制度を使って、実施に至った団体はあるのか。

(こ若支援)

○把握しているのが、平成31年4月時点で17団体、令和3年4月で27団体。ここ2、3年で少しずつ増加している。

(高橋委員)

○無料塾にはどのくらいの生徒が参加しているのか。

(こ若支援)

○3、4人のところもあれば、多いところでは50人ぐらい来ているところもあり、場所によって生徒が多い地域、少ない地域がある。

(割柏委員)

○立ち上げの際に活動場所を自分たちでまず準備しなければならない、そういったところで行政の助けも借りられないと非常に難しいと思う。市の施設がどんどん統廃合されているので、廃止施設を有効利用してもらいたい。中央区でも青葉児童館の廃止の動きあり、老朽化の心配はあるが施設として使えるようあっせんしてもらえればと思う。

(加賀谷委員)

○公民館では学習室という形で部屋を開放していて、3、4年前くらいから生徒、児童が増えている。

(子若支援)

○緊急事態宣言のときに公民館が休館したときがあったが、公民館と連携して学習支援に関しては子どもの居場所として大事なところなので、休館中でも開放した。

(加賀谷委員)

○施設によっては、それぞれの考え方で子どもたちだけの場所ではないとか、ここは勉強する場所ではなくて遊びを中心とする場所だとか言われることもある。もう少し横の連携がしっかりすれば、利用度が広がると思う。

また、学習室は、あそこに行けば友達がいる、宿題を持っていき友達どうして教え合っ分らないところが分かるようになったなど、学力向上ではなく学習への意欲を持たせるきっかけになる場所だと思う。

(高橋委員)

○無料塾を知っている人も少ないのが現状で、私自身も知らなかった。情報が回ってなく、学校の端っこに掲示されているだけで、塾も小学生から行くのも当たり前となっていますが、金銭的に塾に通えない子たちに対して、学校側もその子たちに時間を作って教えてあげることができない現状であるが、先生たちもおそらく無料塾があることを知らない。学校では、学生ボランティアが毎日必ずいるような状態になっている学校もあるので、宣伝をしていけたら良いと思う。

(小川委員)

○情報が伝わらない。自治会回覧では自治会加入率が半分なので、半分しか見てない。

(こ若支援)

○周知で難しいのが、子どもたちが増えると対応しきれなくなる。子供食堂も最初は30食、40食でやっていたが、1回あたり今、120食になっているところもある。

今、子供食堂はコロナ対策で、お弁当を渡すだけの形式が多く、人数が増えても食材さえ作ってしまえば賄うことができるが、学習支援となると建物に留まるため、多く来られると対応しきれないところがある。

(割柏委員)

○学力アップを地域でやろうという発想ではないほうがよい。学習習慣を身につけるとか、一緒に学ぶ楽しさを味わえるというところに視点を置いたほうが地域として取り組む意味があると思う。

(こ若支援)

○子どもたちも若いお兄さん、お姉さんに相手をしてもらったほうが楽しい、聞きやすいこともあるので、大学のサークルなどに呼びかけて学生がボランティアするという気運を高めたいというところはある。

(割柏委員)

○地域としてはきっかけづくり。最初はつまずきがあるだろうけれども、友達や同級生だけではなく、学校が終わって集まった中で、横の繋がりや上下の繋がりができたりして自主的に学習していこうかというところが生まれればいい。

場所や支援者の問題などあると思うが行政、民間、地域の連携を保ちながらやっていけば乗り越えていけると思う。

次回の区民会議は令和5年2月2日(木) 10:00～ 市民会館
グループワーク後、全体会を開催する。

第7期第3回相模原市中央区区民会議小委員会（グループ1） 委員出欠席名簿

No.	氏 名	所 属 等	出欠席
1	小川 紳夫	相模原市公民館連絡協議会	出席
2	加賀谷 育子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	出席
3	酒井 志保	相模原市立小中学校PTA連絡協議会	出席
4	清水 洋子	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出席
5	高橋 采花	公募委員	出席
6	八木 鉄雄	星が丘地区まちづくり会議	出席
7	割 柏 秀規	光が丘地区まちづくり会議	出席

第7回中央区区行政連絡調整会議出席者名簿

	所属・役職	氏 名
1	学校教育課総括副主幹	中島 哲郎
2	こども・若者支援課主任	牛田 崇博